

言語選択について

2025 年度入学生用

関西学院大学 国際学部

【伝達事項】

入学後のクラス編成のために、国際学部全新生は入試ごとに定められた締切日まで
に必ず GTEC（英語クラス編成テスト）を受験する必要があります。この結果を第1外国語として英語を選択する学生のクラス分けに利用します。第1外国語として英語を選択しない学生にも現時点での英語力把握のため受験をしていただきます。

入学式当日は各種プログラムが実施されますので、予定をあけておいてください（翌日以降も「入学手続きのご案内」に記載のとおり、各種説明、オリエンテーションが実施されます）。

〔外国語教育に関する問い合わせ〕

国際学部事務室 教務チーム（電話：0798-54-6072）

言語の選択について

国際学部の言語教育は、4技能のバランスのとれた総合的な言語能力を養成するために、以下のカリキュラムに沿って行われます。確認のうえ、入学後に学習する言語を選択してください。

I 第1外国語

【選択できる言語の種類】

- ①英 語 ②中国語 ③朝鮮語

【授業の概要について】

◆第1外国語初級◆

必修科目として週4回（1回100分）の授業を行います。

例) 英語

1年次春学期：English I 《週4回：4単位》

1年次秋学期：English II 《週4回：4単位》

2年次春学期：English III 《週4回：4単位》

2年次秋学期：English IV 《週4回：4単位》

◆第1外国語中級◆

選択必修科目として週2回の授業を行う科目を2種類開講します。

例) 英語

3年次春学期：English V (Academic English) 《週2回：2単位》

English V (Career English) 《週2回：2単位》

3年次秋学期：English VI (Academic English) 《週2回：2単位》

English VI (Career English) 《週2回：2単位》

◆第1外国語上級◆

選択科目として週2回の授業を行います。

例) 英語

4年次春学期：English VII (Seminar) 《週2回：2単位》

4年次秋学期：English VIII (Seminar) 《週2回：2単位》

【卒業に必要な単位数について】

- ・ 第1外国語初級 16単位
- ・ 第1外国語中級 4単位

※卒業には最低4単位が必要ですが、8単位修得することが望まれます。

- ・ 第1外国語上級の単位については卒業条件ではありませんが、意欲のある学生のための選択科目として開講します。

Ⅱ 第2外国語

【選択できる言語の種類】

第1外国語として英語を選択した場合

- ・ ①中国語 →希望者全員が履修可能です。
- ・ ②朝鮮語 ③ドイツ語 ④フランス語 ⑤スペイン語
→希望者多数の場合は選考および抽選を行います。次ページの「Ⅲ. 選択パターン」に記載された組み合わせで選択することができます。

第1外国語として中国語・朝鮮語を選択した場合

- ・ ①英 語 →英語以外を選択することはできません。

【授業の概要について】

◆第2外国語初級◆

必修科目として週2回（1回100分）の授業を行います。

例）英語

1年次春学期：英語Ⅰ《週2回：2単位》

1年次秋学期：英語Ⅱ《週2回：2単位》

◆第2外国語中級◆

選択科目として週2回の授業を行います。

例）英語

2年次春学期：英語Ⅲ《週2回：2単位》

2年次秋学期：英語Ⅳ《週2回：2単位》

【卒業に必要な単位数について】

- ・ 第2外国語初級 4単位
- ・ 第2外国語中級の単位については卒業条件ではありませんが、初級に引き続き履修することが望まれます。

Ⅲ 選択パターン

【第1外国語に英語を希望する場合】

選択記号	第1外国語	第2外国語の 第1希望	第2外国語の 第2希望	第2外国語の 第3希望
11	英語	中国語		
21	英語	朝鮮語	中国語	
22	英語	朝鮮語	ドイツ語	中国語
23	英語	朝鮮語	フランス語	中国語
24	英語	朝鮮語	スペイン語	中国語
31	英語	ドイツ語	中国語	
32	英語	ドイツ語	朝鮮語	中国語
33	英語	ドイツ語	フランス語	中国語
34	英語	ドイツ語	スペイン語	中国語
41	英語	フランス語	中国語	
42	英語	フランス語	朝鮮語	中国語
43	英語	フランス語	ドイツ語	中国語
44	英語	フランス語	スペイン語	中国語
51	英語	スペイン語	中国語	
52	英語	スペイン語	朝鮮語	中国語
53	英語	スペイン語	ドイツ語	中国語
54	英語	スペイン語	フランス語	中国語

【第1外国語に中国語を希望する場合】

選択記号	第1外国語	第2外国語
61	中国語 ＜「中国語検定試験3級合格に近い」能力を有する者 （実際に検定に合格している必要はありません）。＞	英語
62	中国語（中国語を本学入学後はじめて学ぶ者）	英語

【注意事項】

- ・中国語を第1外国語とする場合、第2外国語は英語となります。
（第1外国語または第2外国語として必ず英語を学ぶことが望ましいため）

【第1外国語に朝鮮語を希望する場合】

選択記号	第1外国語	第2外国語
71	朝鮮語	英語

【注意事項】

- ・朝鮮語を第1外国語とする場合、第2外国語は英語となります。
（第1外国語または第2外国語として必ず英語を学ぶことが望ましいため）

【ダブルディグリー留学希望者の言語選択と入学前の単位認定について】

第1 外国語: **English** の選択が必要です。(かつ入学前に **English IV** までの単位認定が必須)

第2 外国語: 中国語の選択を強く推奨します。

それ以外の言語を選択すると、ダブルディグリー留学のための指定科目や推奨科目と、第2 外国語との曜日時限が重複する場合があります、4 年間、もしくは5 年間で卒業できなくなる可能性が高まります。その結果、留学前までに本学での指定科目を取り終えることができず、現地での留学期間が延びる可能性があります。

中国語の場合は開講クラス数が多いため、ダブルディグリー留学のための指定科目と曜日時限の重複があった場合、別のクラスに割り当てることができる場合があります。

入学前の単位認定については 17 ページをご参照ください。また、ダブルディグリープログラムについての詳細は、下記リンクをご参照ください。

https://www.kwansei.ac.jp/s_is/s_is_206326.html



Ⅳ 留学について

国際学部の学生は原則として、在学中に短期留学、中期留学、長期留学のいずれかの留学プログラムに参加することになっています。

詳細は入学後のオリエンテーションや入学後に配布する留学の手引き等で説明します。

V 入力上の注意について

UCARO で、希望する選択パターンを、3 ページ記載の選択記号に従って入力してください。

The screenshot shows the UCARO (University of Caring and Resilient Action) language selection application form. At the top, there is a blue header with the UCARO logo and a navigation bar with links for '受験一覧' (Exam List) and '入学手続' (Admission Procedures). Below this, the university name '関西学院大学' (Kansai Gakuin University) is displayed. The main title of the form is '【入学手続情報入力】言語選択申請' (Language Selection Application for Admission Procedures). The form is titled '言語選択申請について' (About Language Selection Application). It features a large text input area for comments, a section for '添付ファイル' (Attachments) with a link to '言語選択について.pdf', and a '言語選択' (Language Selection) section with a dropdown menu labeled '言語を選択' (Select Language). Below the dropdown, there is a note: '特に上記を希望する特別な理由・事情がある場合は、以下に記入してください。' (If there are special reasons or circumstances for wanting the above, please enter them below). This is followed by a 'フリー入力欄 (全角 2 0 0 文字)' (Free input field (200 full-width characters)). At the bottom, there are two buttons: '登録する' (Register) and '戻る' (Back).

【注意事項】

- ① 提出した言語選択については卒業まで一切変更することはできない
 - ② 合格者本人にとっての母語（第 1 言語）にあたる言語は選択できない
 - ③ 「Ⅲ 選択パターン」をよく読み、選択記号を間違えずに入力すること
 - ④ 入力記号に間違いがないか提出前に再度確認すること
 - ⑤ 国際学部では、第 2 外国語についても可能な限り第 1 希望の言語が選択できるように考慮しています。『第 2 外国語の第 1 希望言語』に関して、特にその言語を強く希望する特別な理由・事情がある場合はその内容を入力してください。特段の理由・事情がない場合は入力不要です。
ただし、履修希望者数等により、必ずしも第 1 希望が叶うとは限りませんので、その点はご了承下さい。
- ※第 1 外国語に「中国語（選択記号 61 もしくは 62）」、「朝鮮語（選択記号 71）」を選択した方 および第 2 外国語の第 1 希望言語に「中国語（選択記号 11）」を選択した方は入力不要です。

VI 各言語の説明

【第1 外国語としての英語】

皆さんの多くは、これまで小学校での（あるいはそれ以前からの）学習から始まり、中学校や高等学校において英語を学んできたことと思います。今さら英語といってもあまり新鮮に響かないかも知れませんね。でも少し考えてみてください。皆さんはこれまでどのような英語の学び方をしてきたでしょうか。想像するに、特に中学や高校においては他教科と並んで学校の教科として英語の授業を受け、とりあえずは定期試験などで良い成績がとれるような勉強を中心にしてきた人が大半ではないかと思います。そして、大学入試に突破することが多くの皆さんにとっての英語学習の主な目標であったかも知れません。それはそれで意味のあることです。これまではどちらかと言えば、外国語である英語の「知識」を蓄えることに多くの時間を費やしてきたわけです。そしてその結果、皆さんはかなりの量の英語の知識を習得していることと思います。よく、「使える英語」（つまり「運用力」）という言い方がされますが、まず先立つもの（言語知識）がなければ、「運用力」が身に付く道理がありません。

ただ、国際学部に入學した今となつては、英語に関する「知識」だけでは不十分です。これまで身につけた知識をフルに使って、これまで以上に英語の「運用力」を習得して欲しいと願っています。関西学院大学の国際学部には、様々な目標を達成するための道具としての英語を運用するための機会や必要性がふんだんにあります。換言すれば、皆さんがこの学部でどういった分野を専攻するにしても、高い英語運用能力が求められることになります。英語で文献を読み、英語でレポート・論文を書き、英語でディスカッションをしたりプレゼンテーションをしたりすることが日常的に求められます。そういった環境の中で皆さんの英語運用力をさらに磨いていってください。

1年次と2年次には、必修科目である「English I～IV」が週に4コマ開講されます。4コマのうち2コマが「リーディング」、1コマが「ライティング」、残りの1コマがスピーキングやリスニングを中心とした「オーラルコミュニケーション」です。また授業担当者については、皆さんのニーズを考慮し、日本を母語とする教員と英語を母語とする教員が協同で皆さんの指導に当たります。3年次になると、英語の論文・レポートを読み書きしたり、ディスカッション等をするための英語を学ぶ「English V/VI (Academic English)」と、卒業後にグローバルな職場で働くことを想定し、そのための英語を学ぶ「English V/VI (Career English)」の2種類の授業がそれぞれ週に2コマ開講されます。また4年次になると、国際学部が提供する英語の最上級科目である「English VII/VIII (Seminar)」が週に2コマ開講されます。ここでは、レポートや論文作成に求められる高度なリーディング力とライティング力に加えて、英語でそれぞれの専門分野についてディスカッションしたり発表したりするための高度なオーラルコミュニケーション能力を養成します。つまり、国際学部における4年間の英語教育の集大成として四技能すべてをバランスよく完成させることを目標とします。

なお、第一外国語としての英語（科目名は「English」）の必修単位は、3年生の春学期末で終了する「English V」を2つ履修することで満たされますが、引き続き秋学期に「English VI」を履修することを強く勧めます。言語学習における継続の重要性は今さら強調するまでもないと思います。また、皆さんが3年次以降所属することになる研究演習では英語の文献を読むことも多くあります。それに備えて、特に「English V/VI (Academic English)」の履修を強く勧めます。また、4年次に「English VII (Seminar)」を履修するためには、3年次に「English V/VI (Academic English)」または「English V/VI (Career English)」のうちどちらかを通年でとっておくこと（計4単位の修得）が求められます。もちろん、両方履修することが理想的です。

関西学院大学国際学部で第1外国語としての英語の学習を始めるにあたり、これまでに皆さんが養ってきた基礎力をもとに、さらに大きく英語の運用力を伸ばしてくれることを期待しています。

(英語担当者)

【第1外国語としての中国語】

世界市民になり、世界へのドアをあける鍵を手にならしましょう
—中国語を第1外国語に選択するおすすめ—

第1外国語としての中国語は、これまで中国語を習ったことのない方にもぜひ選択してほしいです。国際学部の第1外国語としての中国語教育は、これまでの中国語教育と大きく違って、教養レベルの中国語教育としてではなく、中国語を道具として位置づけ、聞く、話す、読む、書くといった四技能の訓練を徹底的に行い、使える中国語の学習を目標としています。

つまり、バイリンガルを「2つ（あるいは2つ以上）の言語を使いながら、会話を十分に続けることができる人」と定義できるとすれば、第1外国語としての中国語教育の目標はバイリンガルを養成することでもあります。

一年生から四年生までのすべての年度に中国語を開講し、卒業するまでの学習空白を作らず、なおかつ、三年生まで週4コマという学習形態で、学習者が負担無く自然に中国語を身につけるところが、前例を見ないこの国際学部の中国語教育の最大の魅力であり、特徴でもあります。

在学中に、中国留学プログラムも提供していますので、卒業する時点で、中国語を使って、自由にコミュニケーションを行うことが出来るようになり、また、中国語で自分の意見や疑問を適切に相手に伝え、相手の疑問や意見を傾聴し、議論を適切かつ合理的に進める力が身につくようになることが大いに期待できます。

これからは、人的交流や物的交流などが世界的規模で行われることになります。日本にとって中国がますますなくてはならない存在となります。就職してから中国語を勉強するよりは、大学でしっかりと中国語を身につけましょう。中国語という強力な道具を手にして、世界へ飛び立ちましょう。

(中国語担当者)

【第1外国語としての朝鮮語】

21 世紀に入り、アジア地域では諸国間の相互協力や相互理解の重要性が一段と強調されつつあります。その一方で、「互いを理解し、何かについて共感する」という共通の認識基盤がまだ十分とは言えない状況でもあります。一時期は EU のような共同体をアジアで実現しようという「東アジア共同体構想」なるものも提唱されましたが、近年は、主要国の間で緊張や対立の雰囲気の方が強まっているようにも見えます。韓国と日本の間にも、領土問題や過去の歴史など、敏感な問題がいまだにわだかまりを残していると言わざるを得ません。そのような問題と向き合っていくためにも、韓国と日本の架け橋として活躍できるような言語能力と専門知識を備えた人材は、これからもっともっと必要になってくるはずです。

ところが日本における韓国・朝鮮の専門家の数は、決して充分とは言えず、学べる場所も多くはないのが現状です。関学ではいち早くその重要性に着目し、日本国内では先駆的な試みとして、**KOREAN** を第一外国語として指定し、充実したカリキュラムを提供していくことにしています。

関学で提供する **KOREAN** のカリキュラムで、まず一番の特徴は、外国語プログラムとしての質・量、両面における充実度です。週 4 回*という学習時間面の充実さのみならず、基礎を固める初級・中級の授業から、読む・書く、聞く・話すという目的別の授業や、視聴覚教材を用いて教科書以外の言葉遣いを学ぶアクティビティー・クラスなどに至るまで、学生個々人のニーズとレベルに合わせた細やかな指導を行っています。さらに、「韓国留学」という究極の授業で、教室にとどまらず現地にまで学びの場を広げ、韓国の社会や文化を直接体験し、その中でしか学ぶことのできない活きた言語を身につける、という徹底したシステムで学習をサポートします。このような多種多様な授業の中で、言葉を用いた様々な知的活動を経験することにより、語学の知識のみならず、思考力や発想力も鍛えられ、コミュニケーション能力全般の向上が可能となります。

また、優れた言語能力を持つ学生には「単位認定制度」を通して、上級までの時間を短縮させるというフレキシブルな方式で運営されます。

4 年間のプログラムを通して鍛え上げられるコミュニケーション能力は、国際的な感覚を備えた人材を目指す皆さんにとって強力な武器となってくれるでしょう。

(朝鮮語担当者)

*3 年生まで。4 年生は週 2 回の選択科目

【第2外国語としての英語】

私たちの住むこの地球上には 80 億を数える人々が暮らし、そこには 5,000 とも 6,000 ともいわれる様々な言語が話されています。言語とその多様性は人類に与えられたすばらしい財産であり、ある言語を学ぶということは単にその言語に関する知識や技能を身につけるだけでなく、その背後に存在する人々や文化を学ぶことでもあります。また、そういった経験を通して自国や自国の文化、国民性を振り返ることで、偏狭なものの方ではなく、世界的な視野をもって様々な問題に取り組むこともできるようになります。その意味で、これから関西学院大学国際学部で学び、世界市民を目指そうとしている皆さんにとって、様々な外国語を学ぶのは大変有意義なことです。言語多様性、文化多様性こそ、まさに関西学院大学国際学部が目指すものです。

翻って、現実の世界に目を向けてみると、実質的には英語が世界共通語としての地位を不動のものとしています。もちろん、いつまでもこの状態が続くことは考えられません。皆さんも気がついているように、日本においてもここ数年、中国語や朝鮮語などの人気は高まる一方です。いずれも日本のお隣の国の言語ですので、いままでそうではなかったことのほうが不思議であるというべきかも知れません。また、成長を遂げる中国の経済力を背景に、世界的に見ても中国語を話す人口がこれから増加することは想像に難くありません。一方、英語を話す国と言えばイギリスと並んでアメリカ合衆国を思い浮かべる人が多いかも知れませんが、そのアメリカにおいてもスペイン語が英語をしのぐ勢いであり、そう遠くない将来、アメリカ合衆国の言語地図が大きく変わるという予想もあります。このように、世界の言語地図は常にダイナミックに書きかわっています。ただ、先にも述べたように英語は実質的に世界共通語としての役割を果たしており、その状況が近い将来において変わってしまうことは考えられません。これから皆さんが国際学部で学び、広い世界の舞台で活躍しようとするとき、英語の果たす役割はまだまだ大きいと言えます。むしろ、皆さんが将来どういった分野に身を置こうとも、他の諸言語の能力に加えて高度な英語運用力は必須といわざるを得ません。関西学院大学国際学部では、第1外国語として中国語や朝鮮語を選択した場合、第2外国語として英語を学ぶことが求められます。その背景には上に述べたような考えがあります。

1年次には、必修科目である「英語Ⅰ・Ⅱ」が週に2コマ開講され、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングといった四技能をバランスよく育成することを目標とします。また2年次には、選択科目としての「英語Ⅲ・Ⅳ」がやはり週2コマ開講されます。言語学習・習得の特性からして、皆さんには第二外国語としての英語を2年間履修することを強く勧めたいと思います。皆さんの多くは、これまでの英語学習を通して英語の「知識」はかなり習得していると考えられます。第2外国語としての英語の授業では、それらの「知識」を実際に「運用」できるようにすることに重点を置いています。そして、そのためには2年間という時間が必要であると考えています。

皆さんが関西学院大学国際学部での歩みを始めるにあたり、言語多様性の重要性をますます認識するとともに、実質的に世界共通語となった英語の運用力を身につけることを強く願っています。

(英語担当者)

【第2外国語としての中国語】

教養からバイリンガルへ

—中国語を第2外国語に選択するおすすめ—

第2外国語としての中国語教育は、第1外国語としての中国語教育と違って、原則として教養教育を目標としています。つまり、バイリンガルを「2つ（あるいは2つ以上）の言語を使いながら、会話を十分に続けることができる人」と定義できるとすれば、第2外国語としての中国語教育の目標はバイリンガルの養成ではないのです。

従って、選択必修科目（第2外国語）としての中国語は、1回生の時にだけ学ぶことになっていますので、完全習得できるところまでは行かないのが当然の結果となります。

もし、あなたが中国語はどんな言語なのか、中国語話者が選択する言葉の表現の文化的背景をすこし知りたいぐらいであるならば、週2コマで1年だけの中国語の勉強で十分かもしれません。

しかし、より高い志を持ち、日本だけでなく、世界的に自分の力を思う存分に発揮したいなら、バイリンガルを目指さなければ、活躍できる場が非常に狭められることになります。

これからは、日本にとって中国がますますなくてはならない存在となります。英語母語話者の国でも、例えば、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、イギリスなど、中国語がよく使われています。従って、これからは英語だけでなく、中国語の道具としての必要性がますます高まるでしょう。

1年間、少しかじっただけでは物足りない学生のために、オプションとして、選択科目の中国語も用意しています。社会人になってからの再度の中国語学習機会に備え、大学でしっかりと中国語の基礎を固めたいのであれば、「1回生での選択必修科目4単位＋2回生での選択科目4単位」という選択パターンを強くお勧めします。

（中国語担当者）

【第2外国語としての朝鮮語】

【朝鮮語について】

韓国について

「韓国」について、みなさんはどんなイメージを持っていますか？どんなことに興味がありますか？焼肉、キムチ、ピブムパプなどの食べ物、「BTS」や「Twice」などのK-POP、韓国ドラマに映画、南北分断問題などたくさんあると思います。最近では小説の日本語訳も増えてきました。かつては「近くて遠い国」と言われた韓国ですが、今では本当に「近くて近い国」になりました。中には韓国と日本はよく似ていると考えている人もいますが、その類似性は、両者が先史時代・歴史時代を通して深いかわりを持ったからこそ生れたものなのです。いま現在においても、日本にとって重要な位置を占め、また接触の密度もきわめて高い大切な隣人であることに変わりはありません。朝鮮半島の歴史や現在の状況を知ることが、あらゆる意味で、自分の住む「日本」を知ることにもつながるでしょう。一見、日本と似ているように見える社会、文化ではありますが、実際経験してみるとその違いに驚かされる一方、一つ一つその違いを発見していく過程に強い興味をおぼえることでしょう。その面白い経験をするための第一歩が、「その地域で使われることばを学ぶこと」といえます。

朝鮮語について

皆さんは朝鮮半島で使用されていることばを何と呼びますか。「朝鮮語」「ハングル」「韓国語」「コリア語」「韓国・朝鮮語」「ハングル語」など、様々な呼び方がありますね。なぜ一つの地域で使われる言語の名称が、こんなにも多様なのでしょうか。これは特に朝鮮半島の分断の歴史と深いかわりがありますが、ここでは説明を割愛します（授業中一緒に考えることにしましょう）。朝鮮語の文字といえば、日本でも「ハングル」文字を見かける機会がずいぶん増えてきました。あの丸と棒の組み合わせでできた記号のような不思議な文字、実は15世紀に韓民族がみずから作り上げ、誕生の詳細な経緯が知られている非常に科学的かつ合理的な構造を持つ文字なのです。「ハングル」は、組み合わせルールを理解さえすれば、比較的簡単に覚えることができます。何よりも、語順が日本語と同じなので、単語を覚え、それを日本語と同じ順に並べるだけでも意思疎通は可能です。たとえば「私は日本人です。」と言いたい時は、「私」に当たる저(チョ)、 「は」にあたる는(ヌン)、「日本人」にあたる일본 사람(イルボン サラム)、「です」の意味의입니다(イムニダ)をくっつけて、저는 일본 사람입니다.(チョヌン イルボン サラムイムニダ)と言えばいいわけです。加えて、日本語と同じように「敬語」がある、漢字語の発音は日本語と非常に似ているなど、日本語を第一言語とする人にとって最も学びやすい言語の一つだとも言えます。長年勉強しても、日常会話さえおぼつかないといったことはありません。勉強しただけ、目に見える成果が確実に得られる言語だと言えます。

朝鮮語受講における注意点

先に述べたように、確かに朝鮮語と日本語は類似点が多く、日本語話者にとって最も学びやすい言語の一つであるのは間違いありません。他方、特に英語と比べると接する機会の少ない外国語で（むしろこの点は、ポジティブに働くことも多いのですが）、日本語との相違点も少なくありません。授業中はもちろん、授業外にもしっかりと勉強していかないと自分のものにはなりません。朝鮮語を未知の言語から使用可能な言語に転換させるために、受講者は精神的・肉体的労力を「投資」しなければなりません。いつかは回収されるその「投資」を意欲的に行う姿勢で臨んでください。関学では文法クラスと会話クラスに分かれていますので、両方ともバランスよく学ぶことができます。また、より充実した楽しい言語学習を目指し、授業中に映画上映、音楽鑑賞など、文化的な部分に触れる機会もなるべく多く設けたいと思います。さらに、韓国への語学研修のアドバイス、ハングル検定試験の指導なども必要に応じて行います。基本的な語学力を身に

つけた後、どのようにその能力を発展させていくかは皆さん次第です。皆さんの日々の努力が結果としてはっきりあらわれるよう、担当者一同、密度の高い楽しい授業を目指していきます。

*朝鮮語の単語についてのクイズです。右側の朝鮮語の発音を参考にその日本語の意味を当ててみてください。 도로 [ドーロ]、신문 [シンムン]、도서관 [トソグァン]（チェソンハムニダ。答えは教室で）

朝鮮語担当者

【第2外国語としてのドイツ語】

ドイツ語を学ぼう！

ドイツ語(Deutsch: 「ドイツ」)と発音すれば近いかも)は現在、ドイツ、オーストリア、リヒテンシュタイン、それからスイスでも公用語として使われている言語で、ヨーロッパの中でもっとも重要な言語のひとつです。

ドイツ語はなんだか難しそうなのにはあまり役に立たない言語だと思いませんか。

とんでもない！明治以来、ドイツ語は学術(医学、工学、自然科学、人文科学、自然科学)や芸術(文学、音楽、美術)の分野で日本に西洋の学問・文化や思想の成果をとり入れる上で大きな貢献をしてきました。哲学や思想、文化に関心がある人にとっては、ドイツ語はいまも見落とせない言語です。哲学者のヘーゲル、カント、ハイデッガー、文学のゲーテやシラー、ヘッセ、トーマス・マン、音楽のバッハ、モーツァルト、ブラームス、マーラー、医学・科学者ならコッホ、シュヴァイツァー、アインシュタイン、ディーゼル、・・・ひとつくらいは聞いたことがあるでしょう。みなドイツ語に関連する名前です。ビール Bier もバウムクーヘン Baumkuchen も実はドイツ語。ドイツといえば、ベンツ、ポルシェ、アウディ、BMW、VW(フォルクス・ヴァーゲン)などの名だたるドイツ車がすぐ思い浮かびますね。

ドイツ語を使用する地域は、現在 27 カ国が加盟しアメリカ・アジアに並ぶ巨大な経済圏・文化圏となったEU(ヨーロッパ連合)の核となる「中欧」と呼ばれる国々です。みなさんの学ぶ環境問題や福祉・社会制度の先進的な取り組みでも常に世界の注目を浴びています。ドイツ語を学ぶことで、過去の学術や文化の伝統や遺産にアクセスするだけでなく、EU の実質上の代表者であるドイツを通じて、動きつつある世界の「いま」に触れることもできるのです。

国際学部のドイツ語では、入門時から直接にドイツ語の発音に触れ、「聞く、話す、読む、書く」という四つの技能を総合的に学んで、ドイツ語によるコミュニケーション能力の養成を目指します。大きな特色は、日本人とドイツ人の教員二人によるペア授業であること。授業ではドイツ語が多く使われ、ペア学習やグループ学習によって、「使える」ドイツ語を楽しく学ぶことができます。さらにブラッシュアップしたい人のためには、全学卒のインテンシブ・プログラムやドイツ語夏季研修、言語教育研究センター提供のプログラムも用意されています。

国際学部が掲げる「世界市民の育成」には、英語以外の外国語の学習がぜひとも必要です。ぜひドイツ語を学び、英語以外の外国語を通じて、見える世界、体験できる世界を広げましょう。

(ドイツ語担当者)

【第2外国語としてのフランス語】

フランス語に挑戦してみませんか？

皆さんはフランスについてどのようなイメージを持っていますか。芸術の国、ファッションの国、美食の国、自給率 100%以上の農業国、サッカーの強い国……。これらはそれぞれに当たっていますが、フランスという国の持つ多様性のごく一部を表しているに過ぎません。ヨーロッパ最大の他民族国家・フランスは寛容の国でもあり、サッカーのナショナルチームを見てもわかるように、さまざまな国からの移民を受け入れています。また、抵抗の国・フランスでは、デモやストが頻繁に決行され、市民の手によって法案が廃案となることもめずらしくありません。さらに、フランスは早くから少子化対策に取り組み、ヨーロッパの多産国でもあります。そんな多様で魅力的な国フランスに、フランス語を通して触れてみませんか。

もちろん、フランス語はフランスだけで使われている言語ではありません。フランス本国(海外県、海外領土も含めると約 6000 万人)の他、セネガルやコート・ジヴォワールなどでは約 2000 万人によって唯一の公用語として、また、ベルギー、カナダをはじめ、カメルーンなどでは約 2000 万人に公用語の一つとして使用されています。他にも、チュニジア、アルジェリア、モロッコなどで約 2500 万人に使用されており、フランス語を話す人の総計は約 1 億 2500 万人にものぼります。さらに、フランス語は、国際連合、ヨーロッパ連合、ユネスコなどの政治的な場での公用語であることはもちろん、スポーツの分野でも、クーベルタン男爵の提唱によって始まった近代オリンピックや、FIFA(国際サッカー連盟)の公用語でもあります。

皆さんの中には、フランス語を習得することは難しいのでは、と思っている人がいるかもしれません。しかし、毎年5、6月になると、「フランス語の方が英語よりも簡単に感じられる」という意見を持つ人が少なからず出てきます。それは、フランス語の綴りと発音の関係がとても規則的であること、そして、文法体系がすっきりとしていて例外が少ないことがその理由です。さらに、フランス語を勉強し始めると、英語の中にフランス語に由来する語がいくかに多いかを実感することでしょう。例えばメンテナンス maintenance という語は、フランス語の main(手)と tenir(維持する)が結合してできています。フランス語の基本単語から英単語の起源も見えてくるというわけです。

国際学部 1 年次のフランス語では、発音と文法の基礎を学習しつつ、「聞く、話す、読む、書く」という四技能をバランスよく養成していきます。具体的には、日常会話の練習をしたり、フランスの生活文化を紹介したり、それらを背景にしたテキストを少しずつ読み解いたりします。様々なテキストに接し、辞書を片手に日本語との違いと格闘しながら考えていくことによって、ヨーロッパ的思考や論理を学びましょう。1 年間しっかり勉強すれば、2 年次には、基本的なコミュニケーションを取れるようになることはもちろん、『星の王子さま』や『異邦人』などの小説や、フランス語の新聞、雑誌なども辞書を片手に読めるようになります。そして、あなたの世界は飛躍的に広がっていくことでしょう。この機会に是非、フランス語に挑戦してみませんか。

(フランス語担当者)

【第2外国語としてのスペイン語】

スペイン語について

国際連合の公用語のひとつでもあるスペイン語の母語話者数は、2023 年発表の統計で約 5 億人にのぼると言われています。母語でなくても使用する人口を加えると 5 億 9900 万人以上がスペイン語話者で、それは世界の人口の約 7.5%に相当します。スペイン語を公用語としている国はヨーロッパのスペイン、ラテンアメリカおよびカリブ海に位置する 18 カ国（アルゼンチン、ボリビア、チリ、コロンビア、コスタ・リカ、キューバ、ドミニカ共和国、エクアドル、エル・サルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラ）、そしてアフリカ大陸の赤道ギニアと合計 20 カ国もあります。米自治領となっているプエルトリコは、英語とスペイン語の両方を公用語としています。また、アメリカ合衆国内には 2023 年の発表の統計で、スペイン語圏をルーツにしている人が 6250 万人以上いて、アメリカ合衆国の人口の約 19%に相当します。それは 2023 年のスペインの人口約 4760 万人、コロンビアの人口約 5200 万人を超えています。6250 万人のうちの 4225 万人が家庭内でスペイン語を話していると数えられていると発表されています。さらに、かつてスペインの植民地であったフィリピンの人々の名字や、フィリピンの地名には、スペイン語起源のものがあります。このように、スペイン語圏はヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジアと広域におよびます。

少しスペイン語圏について紹介しましょう。スペイン以外に、スペイン語を公用語としている 19 カ国は、みなかつてのスペイン植民地です。植民地という境遇にあったということは、国家として独立した誕生時から発展を阻害する要因を多数抱えることを 意味します。今、世界で、持続可能な発展や社会的包摂の実現に向けた努力が注目されていますが、そこでは先進国と開発途上国の格差をどのように是正していくかという点も、重要な課題となっています。また、EU 加盟国であるスペインも、国内でカタルーニャ自治州の独立を求める運動が起きるなど、大きな変動の渦中にあります。

ラテンアメリカには、16 世紀にスペイン人が到来する以前、アステカ、マヤ、インカといったさまざまな文明が栄えていました。これらは征服によってかなり破壊されましたが、それでも先住民の文化や思想が完全に消滅したわけではありません。かたちを 変えて今も生きています。

言語の学習は、そのことばを使う人間や社会に接近していく時に、よりおもしろくなります。ぜひ、スペイン語文法を学びながら、スペイン語圏の社会や文化に興味を持ち、普段から映画、スポーツ観戦、小説、ニュース報道等を通して自ら触れるよう努力してください。

授業ではグループで話したり、自分で調べて作文をしたりする活動もあります。そうした活動に参加するためには、事前の予習は必須です。宿題だけではなく、自主的にわからない単語を辞書で調べ、文法解説動画を見て教科書の文法事項を理解しておく必要があります。すなわち、予習や宿題のために、基本的に毎回 1～2 時間ほどの準備学習（授業は週 2 回あるので、毎週 2～4 時間）が必要となります。

スペイン語の発音は、日本語に近く、「カタカナ読み」でもある程度通じます。学習したら、すぐにでも使ってみることができるでしょう。週 2 回の授業の 1 回はおもに文法を学習し、もう 1 回は会話練習をします。会話の授業ではクラスメートだけでなく、ネイティブスピーカーである教員とも積極的にスペイン語で話し、これまで知らなかった言語でコミュニケーションをとれる喜びを味わってください。

¡Vamos a aprender juntos!(一緒に学んでいきましょう!)

スペイン語担当者

VII 検定試験等による単位認定制度について

国際学部では検定試験合格等による単位認定制度を導入しています。下表に記載されているスコア・等級について取得している場合は単位認定を受けることができます。

現時点で単位認定基準に達するスコア・等級を取得していて、入学後すぐに単位認定を受けることを希望する方は、次ページをご確認いただき、「単位認定申請書」をお手元に予めご準備の上、国際学部事務室教務チーム（電話：0798-54-6072）まで必ず連絡し、手続きの説明を受けてください。

【重要】

第1外国語の「English」の単位認定を考えている人は、p.20 以降にある担当者からのメッセージをよく読み、各自のニーズにあった最善の選択をするようにしてください。

以下、TOEFL ITP®テスト=TOEFL ITP

TOEFL iBT®テスト=TOEFL iBT (TOEFL iBT® Home Edition も申請可能)

TOEIC® Listening & Reading Test=TOEIC

(IP テストスコアも申請可能。ただしオンライン受験は申請対象外)

IELTS=Academic module または Computer-delivered IELTS

HSK は iBT または PBT

	語種	認定基準	認定する科目
第1外国語	英語	TOEFL ITP525点 (iBT71点) またはTOEIC700点以上 またはIELTS5.5	English I・II (8 単位)
		TOEFL ITP550点 (iBT79点) またはTOEIC780点以上 またはIELTS6.0	English I・II・III・IV (16 単位)
		TOEFL ITP575点 (iBT90点) またはTOEIC850点以上または 英検1級またはIELTS6.5以上	English I・II・III・IV・V (20 単位)
	中国語	中国語検定試験3級またはHSK4級180点～194点	Chinese I・II (8 単位)
		中国語検定試験2級またはHSK4級195点以上	Chinese I・II・III・IV (16 単位)
		中国語検定試験1級またはHSK5級180点～209点	Chinese I・II・III・IV・V・VI (24 単位)
		HSK5級210点以上 (HSK6級の場合180点以上)	Chinese I・II・III・IV・V・VI・VII・VIII (28 単位)
	朝鮮語	ハングル能力検定3級または韓国語能力試験3級	Korean I・II (8 単位)
		ハングル能力検定2級または韓国語能力試験4級	Korean I・II・III・IV (16 単位)
		ハングル能力検定2級以上または韓国語能力試験5級以上	Korean I・II・III・IV・V・VI (24 単位)
	語種	認定基準	認定する科目
第2外国語	英語	英語TOEFL500点 (iBT65点) またはTOEIC650点以上またはIELTS5.0 以上	英語 I・II (4 単位)
	中国語	中国語検定試験準4級またはHSK3級180点～240点	中国語 I (2 単位)
		中国語検定試験4級またはHSK3級241点以上	中国語 I・II (4 単位)
		中国語検定試験3級またはHSK4級180点以上	中国語 I・II・III・IV (8 単位)
	朝鮮語	ハングル能力検定4級または韓国語能力試験2級	朝鮮語 I・II (4 単位)
		ハングル能力検定3級以上または韓国語能力試験3級以上	朝鮮語 I・II・III・IV (8 単位)
	ドイツ語	ドイツ語技能検定試験3級または ゲーテ・インスティテュートStart Deutsch 1または2	ドイツ語 I・II (4 単位)
		ドイツ語技能検定試験2級以上または ゲーテ・インスティテュートZertifikat Deutsch B1 以上	ドイツ語 I・II・III・IV (8 単位)
	フランス語	実用フランス語技能検定3級	フランス語 I・II (4 単位)
		実用フランス語技能検定準2級以上 またはフランス語資格試験DELF I (B1) 以上	フランス語 I・II・III・IV (8 単位)
	スペイン語	スペイン語技能検定5級またはDELE, A1 以上	スペイン語 I・II (4 単位)
		スペイン語技能検定4級以上またはDELE, A2 以上	スペイン語 I・II・III・IV (8 単位)

【注意事項】

①単位認定によって取得した単位は、教職に必要な科目の単位数として算入できません。一度単位認定した科目を授業によって改めて単位取得することはできないため注意してください。

②認定に際しては下位科目から順に認定を受けなければなりません。

③認定する科目を選ぶことはできません。申請時点で未修得の単位は全て認定されます。

例) TOEIC790 点による認定を申請する場合「English I と II だけ認定してほしい (III と IV は授業を受けたい)」というような希望は認められません。I・II・III・IV 全てを一括認定します。

単位認定申請の方法

【国際学部事務室に電話をする前に】

以下の URL「国際学部入学予定者単位認定関連情報」にアクセスし、「単位認定申請書」を予めダウンロード・印刷しておいてください。

国際学部入学予定者単位認定関連情報：

https://www.kwansei.ac.jp/s_is/before_admission



なお、正式な証明書がオンラインに限られる検定試験（TOEIC Listening & Reading Test および韓国語能力試験（TOPIK）に限る）を対象とした入学前の単位認定申請については、オンラインのみの受付となります。以下の google forms より手続き締切までに申請してください。

<https://forms.gle/A9NtGWGGDfxGiGHe8>

【単位認定申請時の必要書類】

- ・ 「単位認定申請書」
- ・ 検定試験の合格を証明するもの（合格証書、スコアシート等）
必ず原本を提出してください（コピー不可）。原本は原則、入学後のオリエンテーションで返却します。

原本の提出が出来ない場合については、お電話の際にご相談ください。

【単位認定申請書の記載にあたっての注意事項】

- ・ 申請書はペンで記入してください。
- ・ 申請書上の「薄い黄色」の色がついた部分を全て記入してください。
- ・ 「上位科目を2025年度春学期（＝入学後すぐ）に履修するかどうか」についても必ず回答を記入してください。

注：「上位科目」とは、

例）「English I・II」を単位認定する場合⇒「上位科目」は「EnglishⅢ」です。

【単位認定申請時の必要書類送付先】

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155

関西学院大学国際学部事務室 単位認定係 宛（※郵送料は各自ご負担）

【手続きの締切】

2025年3月21日（金）必着

※入学初学期の履修登録に反映するための締切です。これ以降単位認定申請ができないということではありません（詳細はホームページ参照）。ただし、ダブルディグリープログラム参加希望の学生は、EnglishⅣまでを上記締切までに認定することが必要です。詳細は、下記リンクを参照ください。

※ 3月21日以降に合格発表があった学生で、入学前単位認定を希望する場合は国際学部事務室までご連絡ください

なお、EnglishⅤまでの単位認定を申請し、ビクトリア大学でのダブルディグリー留学を希望する場合は、上位科目の履修について「履修しない」を選択しないようにしてください（EnglishⅥ、Ⅶの履修が必要になるため）。

https://www.kwansei.ac.jp/s_is/s_is_206326.html

【変更点等の連絡について】

以上の単位認定手続きに変更が出た場合は、国際学部入学予定者単位認定関連情報のページにてお知らせします。定期的にアクセスして確認してください。

【その他注意事項】

- ・入学後も、定められた期間に単位認定申請が可能です。
- ・第2外国語については、前述の通り、希望通りの言語が選択できない可能性がありますのでご了承ください（単位認定を申請してもその言語の選択が保証されるわけではありません）。

【第1 外国語としての「English」の単位認定に関して】 英語担当者より

前述のように、TOEFL や TOEIC などの試験で一定の点数を持っている人は「English」の単位認定を受け、国際学部での英語の授業の一部または全部を受けることが免除される選択肢があります。こういった単位認定制度は、関西学院大学の他学部をはじめ他大学にも広く普及しているもので、国際学部もそれに従ってこの制度を設けています。

ただ、言語教育は国際学部での重要な柱の一つであり、本学部の英語教育も濃密なカリキュラムのもとに行われています。具体的な例を少し挙げるとすれば、アカデミックイングリッシュを身につけるための語彙力増強、リーディング力をつけるための様々なスキルやストラテジー指導、読みの流ちょう性を高めるための多読指導、様々なエッセイやアカデミックペーパーを書くための指導、単に会話力をつけるだけではなく、スピーチやプレゼンテーションをうまく行うためのスキルの指導などです。

「English」各科目の具体的な内容は以下に詳しく書かれていますので、「English」の単位認定を考えている人はこれをよく読み、「認定を申請する資格があってもあえて授業を受ける」という選択肢も視野に入れ、各自のニーズにあった最善の選択をしてください。

第1 外国語としての英語 授業概要

English I Curriculum (Spring Semester)

Theme: Language, Lifestyle, and Culture

Course	Objectives
Reading 1	➤ Accurately read and understand intermediate nonfiction texts in English (CEF B2*) ➤ Improve vocabulary and grammar knowledge through the analysis of written texts ➤ Increase automatic recognition of frequent words and phrases in order to process sentences more rapidly ➤ Achieve receptive understanding of approximately 1900-2200 high-frequency headwords ➤ Summarize and react to a written text *Common European Framework
Reading 2	➤ Achieve basic reading fluency (graded readers level 2+) ➤ Read approximately 120,000-140,000 words at the student's appropriate level ➤ Improve phonological awareness of written texts
Writing	➤ Keep a journal of one's thoughts, activities, and experiences ➤ Demonstrate ability to write an academic-style paragraph ➤ Produce a descriptive essay ➤ Produce a 5-paragraph process essay ➤ Demonstrate appropriate use of online communication tools, such as sending an email to a professor, attaching a document, and uploading files.
Oral Communication	➤ Give a presentation that analyzes and reviews an English language book or movie ➤ Communicate effectively in the following everyday situations: greetings, leave-takings, offers, requests, thanking, visiting a professor ➤ Carry on a basic conversation about a simple topic such as interests, hobbies, sports, school, family, etc. ➤ Display a range of strategies and language for keeping a conversation going (showing interest, asking follow up questions, agreeing, disagreeing politely.) ➤ Listen to a 3-5 minute dialogue at slow to average speed and demonstrate understanding about the main ideas and details of the conversation.

English II Curriculum (Fall Semester)

Theme: Language, Lifestyle, and Culture

Course	Objectives
Reading 1	➤ Accurately read and understand more difficult nonfiction texts in English (CEF C1) ➤ Improve vocabulary and grammar knowledge through the analysis of written texts ➤ Increase automatic recognition of frequent words and phrases in order to process sentences more rapidly ➤ Achieve receptive understanding of approximately 2000-2400 high-frequency headwords ➤ Summarize and react to a written text
Reading 2	➤ Achieve intermediate reading fluency (graded readers level 2+) ➤ Read approximately 120,000-140,000 words at the student's appropriate level ➤ Improve phonological awareness of written texts
Writing	➤ Keep a journal of one's thoughts, activities, and experiences ➤ Produce a 5-paragraph compare and/or contrast essay ➤ Produce a 5-paragraph cause-effect essay ➤ Improve typing speed
Oral Communication	➤ Give a 4-8 minute informative presentation from notes to a large group using at least one visual aid ➤ Display a range of strategies and language for keeping a conversation going (soliciting details, exploring a word, starting/ending a conversation, expressing opinions, summarizing) ➤ Listen to a 5-15 minute lecture given at slow to average speed while taking basic notes, and demonstrate understanding of the main ideas and details of the talk.

English III Curriculum (Spring Semester)

Theme: People, Places, and Issues

Course	Objectives
Reading 1	➤ Accurately read and understand advanced nonfiction texts in English (CEF C1) ➤ Read and react critically to a topic as portrayed from different perspectives ➤ Improve vocabulary and grammar knowledge through the analysis of written texts ➤ Increase automatic recognition of frequent words and phrases in order to process sentences more rapidly ➤ Achieve receptive understanding of approximately 2200-2600 high-frequency headwords ➤ Summarize and react to a written text
Reading 2	➤ Work towards advanced reading fluency (graded readers level 3+) ➤ Read approximately 150,000-170,000 words at the student's appropriate level ➤ Demonstrate a reading speed of at least 130 words per minute ➤ Improve phonological awareness of written texts
Writing	➤ Keep a journal of one's reaction and opinions about current issues ➤ Write a research essay with citations from 3-5 reputable sources, found by students, properly cited (600-1000 words)
Oral Communication	➤ Give a group multimedia presentation in which each speaker talks for 6-10 minutes from notes ➤ Display a range of strategies and language for participating actively in small group discussions on topics related to lectures and readings. ➤ Listen to a 10-15 minute lecture given at natural speed while taking notes, and demonstrate understanding about the main ideas and details of the talk.

English IV Curriculum (Fall Semester)

Theme: People, Places, and Issues

Course	Objectives
Reading 1	➤ Accurately read and understand advanced nonfiction texts in English (CEF C1) similar to those found in authentic 1st year college-level textbooks. ➤ Improve vocabulary and grammar knowledge through the analysis of written texts ➤ Increase automatic recognition of frequent words and phrases in order to process sentences more rapidly ➤ Achieve receptive understanding of approximately 2600-3000 high-frequency headwords ➤ Summarize and react to a written text
Reading 2	➤ Work towards advanced reading fluency (graded readers level 3+) ➤ Read approximately 150,000-170,000 words at the student's appropriate level ➤ Demonstrate a reading speed of at least 150 words per minute ➤ Improve phonological awareness of written texts
Writing	➤ Keep a journal of one's reaction and opinions about current issues ➤ Write a 800-1250 informative research paper that makes use of 3 - 5 reputable sources, found and chosen by students, properly cited
Oral Communication	➤ Give an 8-12 minute informative multimedia presentation ➤ Display a range of strategies and language for participating actively in small group discussions ➤ Listen to a 10-15 minute lecture given at natural speed while taking notes, and demonstrate understanding about the main ideas and details of the talk

English V Curriculum (Spring Semester)

Theme: Language, Culture, and Society

Course	Objectives
Academic English	➤ Read authentic articles on topics related to language, culture, and society ➤ Analyze written texts from a variety of genres (reference, news, opinion, blog) and react to them critically. ➤ Write an article (1000 words) on an issue related to the course content ➤ Give a 8-minute multimedia presentation based on the content of your article

Theme: Global Workplace

Course	Objectives
Career English	➤ Learn about the fundamentals of entrepreneurship ➤ Discuss case studies and apply critical thinking skills ➤ Create, name, and develop a new product or service ➤ Create a marketing survey, collect data, analyze, and present results ➤ Multimedia presentation(s) using business English ➤ Create a professional business (marketing) plan ➤ Create a professional, interesting video describing product or service benefits ➤ Produce a professional western style business resume ➤ Participate in a job interview and effectively answer and ask questions

English VI Curriculum (Fall Semester)

Theme: Language, Culture, and Society

Course	Objectives
Academic English	➤ Read authentic articles on topics related to language, culture, and society ➤ Analyze written texts from a variety of genres (reference, news, opinion, blog) and react to them critically. ➤ Write an article (1200 words) on an issue related to the course content ➤ Learn written and oral argumentation style

Theme: Global Workplace

Course	Objectives
Career English	➤ Learn about the fundamentals of Corporate Social Responsibility (CSR) and business ➤ Discuss case studies and apply critical thinking skills ➤ Evaluate a problem at work and propose a solution ➤ Evaluate a company's CSR efforts and propose a marketing plan ➤ Deliver multimedia presentation(s) using business English ➤ Create a professional business (marketing) plan ➤ Create a professional, interesting video describing product or service benefits

English VII Curriculum (Spring Semester)

Theme: Global Communication*

Course	Objectives
Seminar	➤ Give a 10-20 minute informative presentation based on research of a topic related to global communication ➤ Analyze communication between speakers of various cultural and linguistic backgrounds ➤ Demonstrate appropriate strategies for participating in and facilitating a discussion or debate ➤ Write a research paper (1000-1200 words) that summarizes and evaluates research on a topic related to global communication ➤ Read authentic texts on topics related to global communication identifying author bias, logical fallacies, and other barriers to understanding.

*Global Communication refers to the transmission of messages between speakers of different national and cultural backgrounds in various interpersonal, academic, professional, cultural, and media contexts.

English VIII Curriculum (Fall Semester)

Theme: Global Communication

Course	Objectives
Seminar	➤ Give a 10-20 minute persuasive presentation based on research of a topic related to global communication ➤ Analyze communication between speakers of various cultural and linguistic backgrounds ➤ Demonstrate appropriate strategies for participating in and facilitating a discussion or debate ➤ Write a research paper (1000-1200 words) that summarizes and evaluates research on a topic related to global communication ➤ Read authentic texts on topics related to global communication critically identifying author bias, logical fallacies, and other barriers to understanding.

*Global Communication refers to the transmission of messages between speakers of different national and cultural backgrounds in various interpersonal, academic, professional, cultural, and media contexts.

以 上

2024 年 12 月

国際学部

23